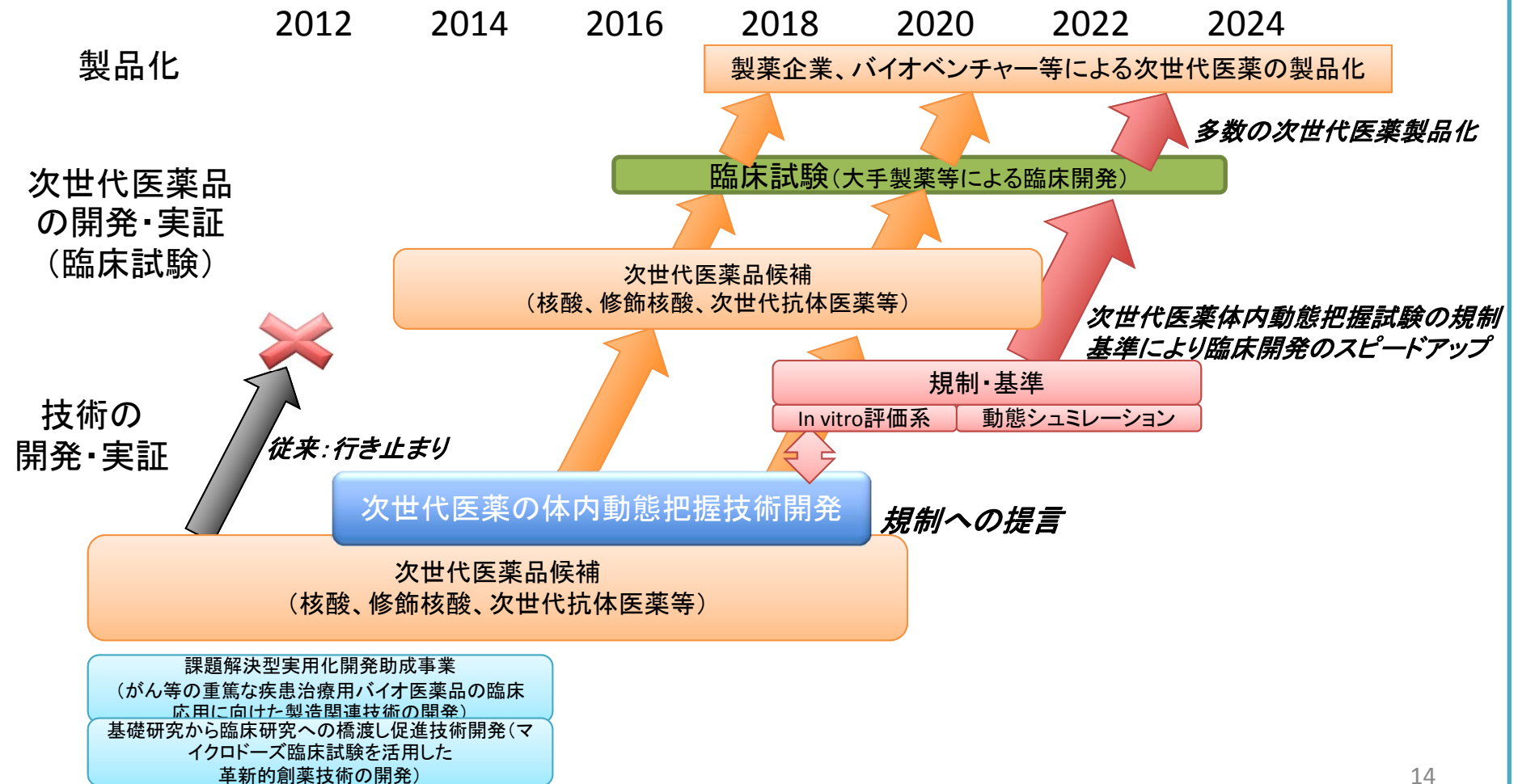


個別化医療に向けた次世代医薬品創出基盤技術開発について

⑦事業内容⑨実施体制

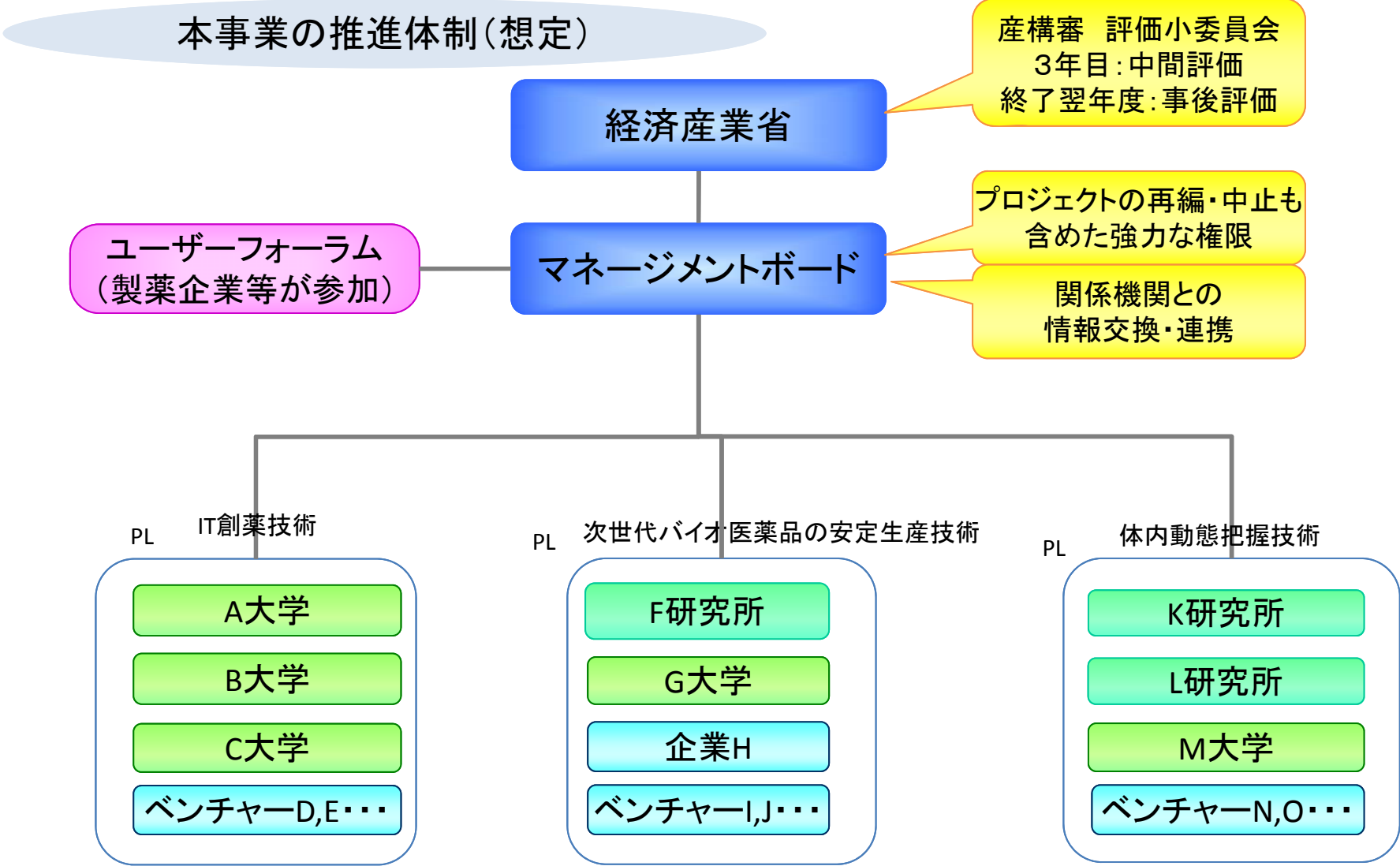
- 体内動態把握技術の第一人者である研究者をプロジェクトリーダーとして、技術に知見のある研究機関、大学、装置メーカー等と連携することで体内動態把握技術を開発する。
- また、次世代医薬品のシーズを有するバイオベンチャー企業において、当該技術を用いた開発医薬の最適化及び開発技術の有効性実証を行う体制が考えられる。

体内動態把握技術の実用化までのスケジュール



個別化医療に向けた次世代医薬品創出基盤技術開発について

⑦事業内容、⑨実施体制

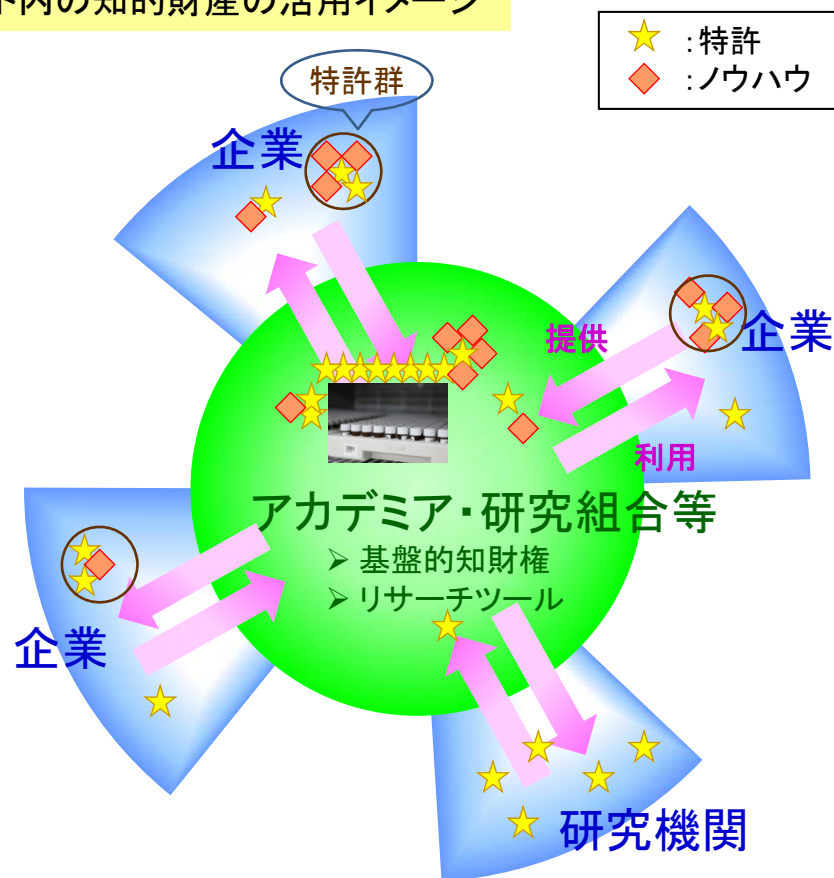


個別化医療に向けた次世代医薬品創出基盤技術開発について

⑦事業内容、⑨実施体制

- IMEC(ベルギー)などでは、情報通信等にかかる知的財産権やノウハウを出し合い、海外企業にも開いた形で「知の結集」を図っている。
- 我が国のライフサイエンス分野でも、海外メガファーマなどに対抗するため、例えば、次世代天然物化学技術研究組合では、国内の企業等が個別に持っていた、天然化合物を生み出す培養株等を、その利用権も含めて結集しつつある。

プロジェクト内の知的財産の活用イメージ



基本方針

- ◆ 共通基盤・リサーチツール特許は広く利用可能
- ◆ 個別機関に関連する知財(特許・ノウハウ等)は個別に保護できる
- ※ 個別機関の状況に合わせて、契約等を調整することが可能

具体策

- ◆ 工業所有権情報・研修館(INPIT)から専属の知財プロデューサーを招聘し、円滑な技術開発成果の普及を促進する知財管理規定とする予定。
- ・ プロジェクト以前に個別機関が保持していた所有財産を、本事業のために利用することを円滑にする
- ・ プロジェクト期間中は相互に成果の無償実施を可能とし、自由な研究開発を支援
- ・ プロジェクト終了後の実施が容易になる仕組みを検討

個別化医療に向けた次世代医薬品創出基盤技術開発について

⑧目標

◇ 科学技術上、社会・経済上及び国益上の効果

1. IT創薬技術
 - 創薬にかかる研究開発費削減及び新薬創出による市場拡大
 - 開発費500～1000億円/1薬剤のうち、100～200億円の削減
2. 次世代バイオ医薬品の安定生産技術
 - 次世代バイオ医薬品の世界市場の創出 → 約21兆円(2030年)
 - 次世代バイオ医薬品の製造技術の市場の創出 → 約6兆円(2030年)
3. 体内動態把握技術
 - 核酸医薬品世界市場予測 → 約2.5兆円(2030年)
 - 治験成功率の3～4倍向上、1薬剤あたり数十億円規模の開発コスト削減